

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども療育研究室 児童発達支援センター Lulu North & Side		
○保護者評価実施期間	2026年2月16日		2026年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	109	(回答者数) 49
○従業者評価実施期間	2026年2月16日		2026年2月22日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 4
○訪問先施設評価実施期間	2026年2月16日		2026年3月13日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	109	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月14日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保育所等訪問を利用している児童の多くが、同一事業所の放課後等デイサービス、児童発達支援を利用しているため、連携が図れる。	事業所内での支援が、実生活につながるよう保育所等訪問に入り、園や学校生活の様子を伝え、連携を図っている。	担当の訪問支援員の困りごとがあった際には、多職種の同行日程を調整し出来る限り迅速に対応している。
2	理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の訪問支援員が在籍しているため、利用児童の困りごとに対して、対応しやすい体制を整えることが出来る。	必要に応じて複数の専門家(職種違い)で対応し、児童のアセスメントができるように、連携しながら保育所等訪問支援を行っている。	グループ企業の中にある「保育所等訪問支援Koa」との情報共有を図り、様々なケースを知る機会を作っている。
3	児童発達支援センター併設の保育所等訪問支援事業であり、児童発達支援センター内で行われている研修などへ参加し、自己研鑽に努めている。	児童の個性に出来るだけ対応できるよう、組織全体でのミーティング等を行い、情報共有を図ったり、アセスメントが出来るよう、定期的に勉強会を行っている。	支援するにあたって必要となる備品の準備や書籍、文献などを設備備品として提供し、スタッフが活かせるような環境づくりをしている。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問支援員の人数が十分ではなく、保護者さんの満足のいく回数だけ、保育所等訪問が行えていない。	様々な専門的アドバイスや指導を求められる状況になった際、そこに対応できる人材の確保が難しい状況。 *知識はもちろん、経験も必要となり難しいことが要因と考えられる。	訪問専従のスタッフだけではなく、通所スタッフなども、保育所等訪問の現場に出向き、生活状況の把握を行い、より良い形サービスの提供が行えるようにする。
2	訪問の対象児童が多くなり、家族支援の頻度やサービス内容の提供に対して十分に時間を割くことが難しい。保護者や事業所向けの研修会を外向けに行っていますが、ペアレント・トレーニングなどのプログラムがなく、訪問支援だけではなく、家族支援の充実を図っていく必要がある。	家族との情報共有については、電話やLINEを用いて個別での支援を行なっています。ただ、対面での場の提供についてはなかなか実施できていない状況。	児童発達支援センターと併用しているため、保育所等訪問支援の立場から勉強会やワークショップなど企画運営に携わり、家族支援に向けたサービス提供が行えるよう努めている。
3	保育所等訪問支援を行っていく中で、定期的なフィードバックなどの時間を提供することが難しく、その点についてどう対応していくかが課題である。	保護者より訪問記録の共有の許可が得られている児童に関しては、訪問先の事業所と書面にて情報共有を行えている。	学校など長期休みの時期に、学校や園と都合が合えば支援会議などの場を設定し、日頃できていない情報交換の場を設けていく。